

## 前期基本計画 平成29年度 政策方針評価書

政 策： 03 次代を担う若者が育ち、新たな価値の創造に挑戦するまちを目指します

担当部長職・氏名	経済産業部長 齋藤 誠司
----------	--------------

1. 政策の平成29年度までの実現状況を明らかにする

(1) 計画のビジョン（政策が実現できたときの状態）

		<p>目指すまちの姿は「雇用環境が充実し、みんなが安心して生き活きと働くことのできるまち」です。このためには、滝沢市の特性や強みを活かし、地域資源を活用しながら、市場ニーズに応じた価値の創造、産学官連携や異業種連携などを推進し、高い競争力をもった産業の育成を目指すことにより、雇用の拡大、地域経済の活性化、産業の振興などが実現し、次代を担う若者が育ち、新たな価値の創造に挑戦しつづける状況が生まれます。</p>
--	--	---

(2) 政策目標値の達成状況

No	政策目標指標	基準値	上：戦略目標見込値／下：達成値					目標値	進捗状況
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	進捗率(%)	
1	暮らし 自分の仕事に満足している人の割合 単位 %	53.5	54	55	56	57	58	B	
			53	53.5	55.1	-	-	35.6	
2	幸福 身に付けた知識や技術を仕事や趣味の場で活かせる機会があると感じる人の割合 単位 %	39.5	40.5	42	43.5	45	46	D	
			40.4	40.4	36.3	-	-	△49.2	
	単位								

(3) 政策を構成する基本施策及び目標値の達成状況

No	基本施策名 基本施策目標指標	基準値	上：戦略目標見込値／下：達成値					目標値	進捗状況
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	進捗率(%)	
1	暮らし 03010000 地域資源を活用した戦略的な産業振興 チャグチャグ馬コの入込客数 単位 千人	28	28.5	29	29.5	30	30	D	
			22	18	18	-	-	△500.0	
2	幸福 03010000 地域資源を活用した戦略的な産業振興 滝沢市に愛着がある市民の割合 単位 %	74.2	75	75.7	76.4	77	77.7	C	
			72.3	78.3	74.6	-	-	11.4	
3	暮らし 03020000 企業集積と産学官連携の推進 IPUイノベーションセンター・パークへの立地件数 単位 %	18	20	21	23	25	26	C	
			20	19	16	-	-	△25.0	
4	幸福 03020000 企業集積と産学官連携の推進 身に付けた知識や技術を仕事や趣味の場で活かせる機会があると感じている人の割合 単位 %	39.5	40.5	42.5	43.5	45	46	D	
			40.4	40.4	36.3	-	-	△49.2	
5	暮らし 03030000 農林業の振興 農業後継者（販売農家）の有無の割合 単位 %	55.2	55.7	55.7	55.7	55.7	55.7	A	
			55.2	58.6	58.6	-	-	680.0	
6	幸福 03030000 農林業の振興 身に付けた知識や技術を仕事や趣味の場で活かせる機会があると感じている人の割合 単位 %	39.5	40.5	42	43.5	45	46	D	
			40.4	40.4	36.3	-	-	△49.2	

## 前期基本計画 平成29年度 政策方針評価書

政 策： 03 次代を担う若者が育ち、新たな価値の創造に挑戦するまちを目指します

担当部長職・氏名	経済産業部長 齋藤 誠司
----------	--------------

### 2. 政策の実現に向けての平成29年度までの取り組み状況を分析する

#### (1) 政策目標の達成（実現）に向けた基本計画期間内の取り組みと方針についての達成（実現）状況

C	一部達成した
<p>企業誘致や特産品開発、チャグチャグ馬コ行進などの分野では、一定の成果があり、又は目的を達成したものと考えます。一方、経済産業全般においては、常に変化を続ける社会環境に追隨して一定のレベルを保持し対応するためには、不断の努力が必要となります。</p>	

#### (2) 基本計画内の取り組みと方針のうち、平成29年度の重点課題の達成（実現）状況

B	概ね達成した
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域資源を活用した戦略的な産業振興」については、産業創造センターの指定管理者との連携による情報発信を開始しました。指標としての売上額は増加の傾向にあります。</li> <li>・「企業集積と産学官連携の推進」については、イノベーションセンター等に関心のある企業の調査に努め、入所又は立地につながっています。一方で、産学官連携や共同研究については、具体的評価指標の設定が困難です。</li> <li>・「農林業の振興」については、後継者育成や農地集積などにより粘り強い施策展開を図っています。一方で、T P P 11や森林環境税の行末など、国レベルでの不確定要素が大きく本市でも将来展望を見越すことができないため、農家に不安があります。</li> </ul>	

### 3. 政策の実現に向けて平成29年度実施後での変化（外部環境・内部環境）を認識する

A	取り組みの継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグルーフ滝沢、産業雇用創造センターについては、グランドオープンにより本格運用が始まりました。</li> <li>・チャグチャグ馬コ行進のルート変更により、ビッグルーフ滝沢の可能性が広がりました。</li> <li>・イノベ関係に関心を寄せる企業は増加の傾向にあります。</li> <li>・人材育成やブランド開発については、多くの可能性があり、今後も継続した努力が必要です。</li> <li>・T P P 11等の行末が不透明です。森林環境税の施行がま近となりました。</li> </ul>	

### 4. 政策の実現に向けての今後の取り組みと方向性を明らかにする

#### (1) 平成31年度方針策定に際し、今後の方向性や引継課題

B	課題あり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光振興、商工業振興、企業誘致など、ニーズや社会変化を見据えた戦略が必要です。</li> <li>・農林業振興は、T P P 11など国際レベルの重要な動きを捉え、効果的な施策を展開する必要があります。</li> <li>・財政構造改革のおり、部内各課のミッションを単純明確にとらえ、効果的な事業展開やネットワーク作りをする必要があります。</li> </ul>	

